

(第3種郵便物認可)



韓国の鄭義溶外相(左)との会談に臨む茂木外相
＝5日、ロンドン(外務省提供・共同)

北朝鮮非核化へ結束 日米韓の 外相確認

日本と米国、韓国は5日、うよう求める方針でも一歩前進した。3カ国で非核化交渉に
英ロンドンで3カ国外相会談を再開した。1月のバイデン米政権発足後初めて。米政権による北朝鮮政策
見直し作業の完了を踏まえ、北朝鮮の完全非核化へ、かどろが不透明だ。
3カ国会談にはプリンケ
を再確認した。北朝鮮に国
連安全保障理事会決議に従
米政権は新たな北朝鮮政策
を詳細に説明。茂木氏は米
米側が開催を主導した。

所が日本政府に元慰安婦への賠償を命じ、日本側は国際法違反だとして猛反発。2月に鄭氏が外相に就任して、茂木氏との電話会談も行われない状況が続いていた。5日の会談は日米韓外相会談の直後に日韓に直接関係改善を求め、米側の意向が影響した可能性がある。

洋放出方針を巡り、必要な情報提供は今後も続けるとした上で、処水を巡る最近の韓国政府の対外発信に懸念を示した。

鄭氏は、周辺国との十分な事前協議がなかったとして「深い憂慮」を表明し、海洋放出に反対すると伝達。韓国民の健康と安全、海洋環境に潜在的な危険性がある。

国が朝鮮半島の完全非核化目標を維持したことを歓迎した。日本人拉致問題の解決へ米韓の理解と協力を求め、1時間で、米政権が「唯一の競争相手」と位置付ける中国への対応は議論しなかったという。日米韓外相会談は昨年2月以来、ロンドンで先進7カ国(G7)の外相会合に韓国がゲストとして招待されたのを機に開催を主導した。

心不全抑制 RNA 発見

熊本大・尾池教授ら 新治療法開発に期待



尾池雄一教授

熊本大学大学院生命科学研究部の尾池雄一教授(55)＝代謝・循環医学Ⅱの研究グループ＝が、心不全の進行を抑える「心不全抑制RNA」を発見した。心筋細胞内にRNAを増やして作用を活性化させることで、新たな治療薬を開発できる可能性があるという。5日付の英科学誌「電子版」に発表した。6日に会見した尾池教授によると、新たに発見したのはRNAの「心不全抑制RNA」。心筋細胞に豊富に存在し、代謝を高め、心不全患者は目立って減少しているという。

また、心不全状態のマウスに「心不全抑制RNA」を投与すると、心筋細胞に「心不全抑制RNA」を投与すると、心臓のポンプ機能の低下を抑制できることも分かった。ヒトにも同様の効果が認められれば、新たな治療法につながるという。

今後、遺伝子治療や薬などで「心不全抑制RNA」を増やして治療法を開発できる可能性があるという。

教員採用 計581人

県教委、熊本市教委 前年度並み

熊本県教育委員会と熊本市教委は6日、2022年度教員採用試験の中学校技術の教員も廃止する。新たに私立学校教員や塾講師ら「教員」の免許だけで採用される対象として、特別支援教員を確保する。熊本市教委は227人を予定。従来、「中学校教諭等」として採用される者、小中両

年末ジャンボ宝くじの販売が始まり、買い求める人たち
＝20年11月、熊本市中央区のみずほ銀行熊本支店(池田祐介)

